ISSN 1880-585X

sendai-city chronicles communication paper.

# せんだい 市史通信

第23号
仙台市博物館
市史編さん室

テイセラの日本図(仙台市博物館所蔵)

テイセラの日本図(部分) 中央にある「villoxu」は奥州のこと。また、右端に記された「35」は北緯35度を示している

南蛮屏風(部分) ポルトガル人に付き従う傘を持った黒人が描かれている (重要文化財 サントリー美術館所蔵)

## せんだい 今昔
## 探検家ビスカイノと仙台

1611年(慶長16)の冬、スペインの大使として来日していた探検家ビスカイノ一行が初めて仙台領を訪れました。沿岸測量のためです。彼らには、日本の沿岸測量と東方海上にあるとされていた伝説の金銀島の探検という使命が与えられていたのです。

この時ビスカイノたちは、前後17日にわたって仙台城下に滞在し、藩主伊達政宗から仙台城へも招待されます。

彼らは本国への報告書(『金銀島探検報告』)に、仙台城が四方を非常に深い川で囲まれた岩山の中に築城されているなどと、その堅固なさまを特筆し、そこから眺望した市街を江戸と同じくらいの大きさでしっかり造られていると記しています。しかし残念ながら、仙台城下での人々の暮らしぶり、町の賑わいなどには言及していません。とはいえ、仙台領で接した人々の記述はあり、そのなかには仙台城下に当てはめてもよいと思われるものもあります。

子供連れで街路などに出てビスカイノを待ちうけ、彼に自分たちを祝福して聖母のロザリオを頭の上に載せてくれるよう求める人々がいた、と記すのがそのひとつです。俗人のビスカイノにおまじないをしてもらおうとするその光景は、スペイン人たちにとって奇妙なものだったでしょう。

また、初めて目にするスペイン人に驚き、特にビスカイノに仕える黒人に多くの人々が駆け寄ってきては、その肌から黒さを拭き取ろうとするので、入場料を取って興行ができそうだという記述も、さまざまな所での出来事なので、仙台城下を含めてよさそうに思います。

16世紀半ば、最初にポルトガル勢力が日本にやってきてから半世紀以上にわたり、ヨーロッパ人は西日本を活動の場としていました。1595年に印刷されたテイセラの日本図はその状況を反映したものとなっています。彼らの未踏の地である奥羽は非常に小さく、北緯37度を超えたところ(福島県南部あたりに相当)が本州の最北となっています。

しかし17世紀にはいると、徳川政権の政策がヨーロッパ人を日本の東へ北へと押し進めます。ビスカイノらが仙台へやってきたのもその一コマでした。

こういった情勢のなか、政宗は太平洋航路によるスペイン勢力との交易を企図し、1613年に使節をスペイン国王とローマ教皇のもとへと送り出します。ビスカイノは再び来仙し、この派遣船建造に協力することになるのですが、その経緯を含め、くわしくはぜひ『仙台市史 特別編8 慶長遣欧使節』をご覧ください。

# 仙台の内水面漁業

広瀬川や名取川では、7月1日が鮎釣りの解禁日。
独特の長い竿を振る釣人の姿が見られるようになります。
このような仙台の川や沼がもたらす豊かな恵み
――内水面漁業の歴史を振り返ります。



広瀬川の鮎釣り風景　平成22年7月2日

『奥州名所図会』にみえる鱒漁（画面中央）（宮城県図書館所蔵　図は角川書店『日本名所風俗図会1奥州・北陸の巻』より）

広瀬川下流で捕らえられたサクラマス　平成21年（宮城教育大学棟方研究室提供）

## 鱒（ます）

伊達政宗は、川狩りと称して川で魚を採るのが大好きでした。気分の悪い時でも、「川狩りをすると気がはれる」と言ったと側近が書き残しています。

鮎と並んでこの川狩りの獲物であったのが鱒。今ではなかなかお目にかかれなくなったサクラマスのことです。大きいものは体長75cm、体重5.6kgにも及ぶこの魚、実は川の上流域にすむヤマメと同じ種類なのです。ヤマメの中で川を下り、海で約1年を過ごしてヤマメとは似ても似つかない巨体に成長したのがサクラマス。ですから、サクラマスは鮭よりもずっと上流、ヤマメが生息している山間まで川を遡るのです。

江戸時代後期に作られた『奥州名所図会』には興味深い絵が収められています。それは、川を遡り、ついには名取大滝（秋保大滝）を登ろうとして、滝を登りきれずに落ちてくる鱒を網で捕らえるという絵です。ちょっと信じがたい気もしますが、それだけたくさんの鱒が川を遡ったということなのでしょう。

## 鮭（さけ）

戦国時代、広瀬川、名取川下流域を所領としていた粟野氏は、毎年最初に採れた鮭を伊達氏に献上していました。鮭は正月には欠かせない重要な魚でもあり、初鮭献上は、粟野家にとって名誉なことだったに違いありません。

江戸時代に入ると、鮭を採るためには藩へ権利金を支払わなければならないようになりました。文政8年（1825）の記録では、その額は鮭1本あたり150文だったとあります。1文は現在の貨幣価値で言えば10円から20円くらいに相当しますので、ちょっと高すぎるような感じもします。

原因ははっきりとはしないのですが、明治に入ると、宮城県内の鮭の漁獲量は次第に減ってきます。明治20年（1887）代初期に河口付近や川で採れた鮭は約450tでしたが、明治30年代初期には約3分の1になっています。

このため県は明治23年に国から技術者を派遣してもらい、北海道から20万粒の卵を取り寄せ、広瀬川中流の三居沢の紡績工場内に施設を設けて人工孵化させ、放流をおこなっています。

現在も、漁業組合の努力によって鮭の人工孵化、放流が続けられています。秋になると広瀬橋の上からは悠然と泳ぐ鮭の姿を見ることができますし、郡山堰の下では、多くの鮭が浅瀬で水しぶきを上げています。

明治21年の『宮城県漁具図解』にみえる鮭網漁　（宮城県図書館所蔵）



広瀬川での鮎の放流　昭和43年（個人蔵）

## 鮎（あゆ）

鮎は清流・広瀬川を代表する存在です。現在その多くを人工放流に頼っていますが、かつて広瀬川や名取川には、あふれるくらいの鮎が遡上していました。

かつて、伊達政宗は夏になると、七北田川や名取川、白石川などの上流を回って歩き、おびただしい数の鮎を捕っています。また、鮎捕り専用の鵜も飼っていて、子息たちに貸し与えたという記録もあります。おそらくは政宗自身も鵜飼による鮎漁を楽しんでいたものと思われます。

明治20年代前半の統計によると、宮城県内の鮎の漁獲量は約30t。そのうち、名取川が約14t、広瀬川が約6tと、両河川で県内の鮎の漁獲量の3分の2を占めていました。鮎の大きさは、成長の度合いや環境によって大きく違いますが、仮に体長20cm、重さ100gを平均的な魚体とすると、広瀬川では年間6万尾の鮎が採れていたことになります。

かつて広瀬川の河原には、釣人から鮎を買い取る専門業者がいたそうです。鮎は彼らの手を経て、市内の旅館や料理屋、そして市民の食卓へと供されました。

しかし、たくさん採れた鮎も、第二次世界大戦後の急速な水質の悪化や河川環境の変化によって、大きくその数を減らした時期もありました。その後、水質改善の努力がなされ、鮎の姿が再び見られるようになりました。最近では、魚道の改修で広瀬川の天然鮎が増えたという話も聞こえてきます。広瀬川の鮎は、復活しつつあります。



貞山堀でのシジミ漁　昭和44年
ジョレン（長いサオの先についたカゴ）で堀の底を掻いてシジミを獲る。かつてはシジミ漁だけで生活が成り立っていたこともあるという　（撮影：小野幹）

泉区福岡の水田でのどじょう漁　平成8年
ドジョウドウと呼ばれる筒を仕掛けるところ　（仙台市歴史民俗資料館提供）

明治21年の『宮城県漁具図解』にみえる雑魚網漁　（宮城県図書館所蔵）

## 鮒（ふな）やどじょう

用水路が縦横に走り、沼が散在する若林区の七郷や六郷地区の一部では、かつて農家の副業として雑魚（ざこ）捕りが行われていました。

水田や用水路、沼やため池で鮒やどじょうなどの雑魚を捕るのは、子供の遊びのようにも思えますが、かつては重要な生業の一つでした。川や沼などの魚は重要なタンパク源として人々の食生活を支えていたのです。

こうした雑魚捕りは、自分の家で消費することを目的にすることが多かったのですが、中には商売を目的にしての雑魚捕りを行う場合もありました。七郷の大沼、長沼で捕れる鮒が美味であるということは、江戸時代の『封内土産考』にも記されています。

元文3年（1738）、今の若林区六郷地区で、「小魚捕（ざかなとり）」が堰などを壊すという事件が発生しました。城下あたりから販売目的に専門に雑魚捕りをする者が村に入り込んで、問題を引き起こしたようです。これも、当時の仙台城下における雑魚の需要状況を反映したものと言えるでしょう。

施設探訪

# 宮城県慶長使節船ミュージアム
## 愛称〔サン・ファン館〕

慶長18年(1613)、ヨーロッパへの使節派遣を計画した仙台藩主伊達政宗は、幕府やスペイン人の協力を得て、領内の日本人船大工たちに洋式帆船を建造させました。それが「伊達の黒船」＝サン・フアン・バウティスタ号です。同年、政宗の命を受けた支倉常長ら慶長遣欧使節を乗せて牡鹿半島月浦を出帆したサン・フアン・バウティスタ号は、およそ3カ月をかけてメキシコのアカプルコ港に使節一行を送り届け、いったん日本へ戻ってのち、元和3年(1617)、帰路の使節一行を迎えに再びアカプルコ港へ渡航しています。つまり、日本人の手で建造された洋式帆船として初めて、太平洋の大海原を2往復した船なのです。

そのサン・フアン・バウティスタ号の復元船が造られたのは平成5年(1993)。そして、この国内最大の復元船を核に、慶長遣欧使節の歴史や大航海時代の帆船文化を映像やシミュレーターによって紹介するのが、宮城県慶長使節船ミュージアムです。ミュージアム内のドックに係留された復元船サン・ファン・バウティスタ号は、緑鮮やかな丘陵を背景に、遙か太平洋の水平線に舳先(へさき)を向けています。

帆船技術展示
手前から伸びる細長い板は、復元船の船体中央から後方にかけての肋骨材を製作するために実際に使用された型板

400年前の船大工たちも、現代の船大工たちも、洋式帆船の建造に携わるということでは、同じ驚きや困難があったと思われます。しかし、僅かな資料から復元しなければならないうえに、木造船の需要が途絶え、昔ながらの船大工が高齢化した現代のほうが、状況は難しかったかもしれません。

宮城県慶長使節船ミュージアムでは、その復元船建造過程の貴重な記録とともに、建造にあたって使用された実際の船大工道具や材料を展示するほか、鉋(かんな)がけやハダ打ち(板と板の合わせ目に檜の樹皮を打ち込んで浸水を防ぐ作業)など、船大工の仕事を学ぶ体験学習も企画され、失われつつある船大工技術の伝承の一役(いちやく)を担っています。

### 宮城県慶長使節船ミュージアム　愛称〔サン・ファン館〕

宮城県石巻市渡波字大森30-2　TEL:0225-24-2210

**開館時間**　9:30～16:30 (8月中は17:30まで)

**休館日**　毎週火曜日(祝祭日を除く)・年末年始

**特別開館**
ゴールデンウィーク期間
中・8月中・1月1日

**観覧料**
＊団体は20人以上

| 区分 | 個人 | 団体 |
|---|---|---|
| 一般 | 700円 | 560円 |
| 高校生以下 | 無　料 | |

**交通案内**
・JR仙石線　石巻駅より路線バス鮎川線「サン・ファンパーク」下車
(土・日・祝日のみ運行)
・JR石巻線　渡波駅より徒歩約20分
・三陸自動車道　石巻河南I.Cより牧山トンネル経由約25分

---

## 仙台市史　最新刊好評発売中

**第28回配本 特別編8**

# 慶長遣欧使節

オールカラー　B5判　630頁　定価6,000円(本体5,714円)

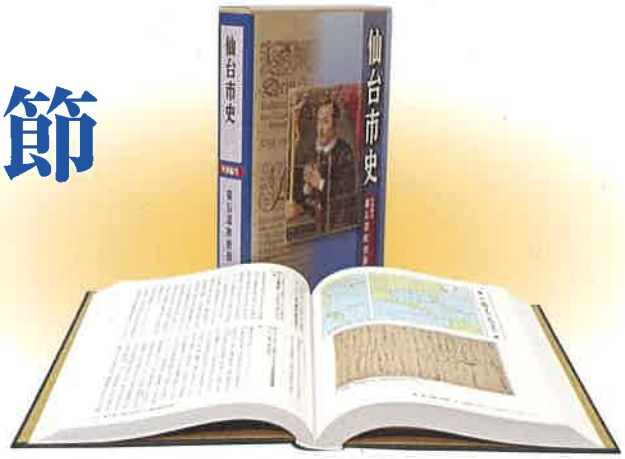
**400年前の外交使節・支倉常長の足跡を、国内外に現存する文献や美術資料をもとに紹介します**

| | |
|---|---|
| ◎次回刊行予定<br>通史編8　現代1<br>◎続刊予定<br>通史編／現代2<br>特別編／地域誌、年表・索引 | 通史編／3,000円(本体2,858円)<br>資料編／4,000円(本体3,810円)<br>特別編／6,000円(本体5,714円)<br>※板碑のみ5,000円(本体4,762円)<br>1冊ずつお求めになれます |

**通史編**　1原始 ※改訂版とセットとなります　2古代中世　3近世1　4近世2　5近世3　6近代1　7近代2

**特別編**　1自然　2考古資料 ※完売しました　3美術工芸　4市民生活　5板碑　6民俗　7城館　8慶長遣欧使節

**資料編**　1古代中世　2近世1 藩政　3近世2 城下町　4近世3 村落　5近代現代1 交通建設　6近代現代2 産業経済　7近代現代3 社会生活　8近代現代4 政治・行政・財政　9仙台藩の文学芸能　10伊達政宗文書1 ※完売しました　11伊達政宗文書2　12伊達政宗文書3　13伊達政宗文書4




県内主要書店、仙台市博物館でお求めになれます。
配送をご希望の方は、電話・FAXで㈱宮城県教科書供給所へお申込みください。

発売元／㈱宮城県教科書供給所
〒983-0034 仙台市宮城野区扇町一丁目6-3
TEL 022-235-7181
FAX 022-235-7183

お問合せ先／仙台市博物館市史編さん室
〒980-0862 仙台市青葉区川内26
TEL 022-225-3074

---

## お知らせ

### 『通史編1　原始　旧石器時代』〔改訂版〕の刊行について

旧石器遺跡発掘ねつ造事件をうけて改訂版を刊行しました。ご購入いただいた元版を博物館の「市史改訂版」係まで送料着払いでお送りいただくか、博物館まで直接お持ちください。お届けいただいた元版に改訂版を添えてお返しいたします。詳しくは市史編さん室までお尋ねください。

### 『特別編2　考古資料』正誤表シールの配布について

旧石器遺跡発掘ねつ造事件をうけて、『考古資料』のねつ造部分について修正内容を示した正誤表シールを作成しました。『考古資料』をご購入いただいた方に配布しておりますので、詳しくは市史編さん室までお尋ねください。

せんだい市史通信 第23号
発行年月日／平成22年7月31日
編集・発行／仙台市博物館市史編さん室
〒980-0862　仙台市青葉区川内26
TEL／022-225-3074
URL http://www.city.sendai.jp/kyouiku/museum

再生紙を使用しています／このリーフレットはリサイクルできます